

研究会報告

文献情報のデータベースとその利用 に関する研究会

平成 2 年度 統計数理研究所 共同研究 (2-共会-94)

開催日：1991 年 3 月 7 日

研究代表者：村上 征勝 (統計数理研究所)

人文科学の諸分野で各種の文献のデータベース作成とその利用に関する研究が行われるようになった。しかし、このような研究が始められたのは比較的最近のことであり、その為、各分野の研究者間の交流もいまだ少なく、研究情報の交換も必ずしも十分とはいえない状況にある。そこで、一昨年、昨年に続き標記の研究会を開催し、研究情報の交換、成果の報告を行い、また、今後の課題等について討議した。尚、本年度も昨年と同様に、総合研究大学院大学の共同研究「文字・画像データベースの構築とその利用に関する総合的研究」(代表者：杉田繁治 (国立民族学博物館)) の研究会も兼ねて開催した。研究報告数は 13 件、参加者は 59 名であった。

プログラム

「挨拶」

杉田 繁治 (国立民博・総合研究大学院大学)

村上 征勝 (統数研・総合研究大学院大学)

セッション 1. 司会：照井 武彦 (国立歴史民俗博物館)

「遺跡調査におけるデータベース化」

堅田 直 (帝塚山大・教養)

「社会調査における自由回答のデータベース」

鈴木 達三・村上 征勝 (統数研)

「機械処理を考慮した中国語高頻度単語音声のいくつかの統計性質」 金 明哲 (宇都宮大・工)

セッション 2. 司会：西端 幸雄 (大阪樟蔭女子大)

「文章作成アウトライン・システム」

樺島 忠夫 (大阪府大・総合科学)

「関係構造分析法を適用した学術文献間の特徴抽出」

斉藤たつき (北大・工)

「パソコンによる自動単語分割処理とテキストデータベースへの応用」

荻野 綱男 (筑波大・文芸・言語)

セッション 3. 司会：吉岡 泰夫 (熊本短大)

「日本古典文学本文データベース」

安永 尚志 (国文学研究資料館)

「『国語関係記事台帳』について」

井上 優・中曾根 仁・辻野都喜江 (国立国語研)

「古記録の全文入力について」

水藤 真 (国立歴史民俗博物館)

「テキスト情報の構造について —— 理論と実際 ——」

土屋 俊 (千葉大・文)

セッション 4. 司会: 米田 正人 (国立国語研)

「コンピュータによる『白氏文集』総索引作成の諸問題」

當山日出夫

「源氏物語成立過程に関するコンピュータ解析」

上田 裕一 (琉球大・工)・村上 征勝 (統数研)・上田 英代

「日蓮遺文と偽作の文体差に関する計量分析」

村上 征勝 (統数研)・岸野 洋久 (東大・海洋研)・古瀬 順一 (群馬大・教育)